ＡＩＪでは立場の勉強を強いられます。自社の様には通用しない環境の中、企業規模、事業も異なる会員が交流し、時に切磋琢磨できる学び舎でもあります。今、日本を取り巻く事業環境は大きく変化しています。雇用については、私が入会した五年前に比べ複数の企業に勤めるダブルワークや裁量制・ギグワークが広く認知され、多様な働き方も推奨されています。世の中に求められる人材を目指すジョブ型のビネスマンも増えています。

また、経営においても、後継者不足による事業承継問題やスモールＭ＆Ａの浸透、ＣＯＶＩＤ－一九をきっかけに祖業を捨てる決断を下した企業等もあり、私達も対応できる力を常に備えておく必要があります。ＡＩＪは学び舎として十二分に活用できます。新しい環境に飛び込み、与えられた役割を全うしましょう。例会の内容が本業と関係がないことでも、部会の運営そのものが会社組織に反映させられたり、例会の企画が事業戦略に置き換えられたり、その過程の中から事業のヒントや種が必ず隠れています。ひとつひとつのＡＩＪ活動が経験として積み重なっていき、経験の点と点がつながって線になる時があります。そして過去の活動と現在の活動がつながる実感を持ちます。さらには自社の事業への発想が浮かび、閃く瞬間が生まれます。縁がつながり円になる直感。その時、皆さんがこれを学ぶためにＡＩＪに入ったのかもしれないと思うはずです。全ての行動は皆さんの未来につながっています。本業と異なる環境下で身を置いてＡＩＪ活動を粘り強く、胆力を持って参加し、考え続けることが会員にとって何よりも重要です。

『結びに』

逆境下だからこそ、私たちは活動を通して学びを止めてはならない。

過去にもバブル崩壊、リーマンショック等、数多くの景気が低迷による経済不況を乗り越えてきました。

現在では、地震や台風被害等の天災も頻繁に見舞われます。

そして東日本大震災の発生から一〇年の節目を迎えます。

しかし、人間には困難に適応する能力が備わっています。

価値観が大きく転換する今、新しい事業やサービスが雨後の筍の様に生まれてきています。

私達は青年経営者団体として、逆境を力にチャンスを掴み取れる活動を行っていきましょう。

史実から過去を知り、現在を生き、未来を創造する。

ＡＩＪ活動の歴史を一つとっても学べることは多々あります。

いつか未来の会員が私達の活動について、「世界中をＣＯＶＩＤ－一九が席巻しても、先輩の奮闘は凄しかったなあ」と思いを馳せる、その未来の会員が私達の二世三世会員であれば尚更本望です。次世代に襷をつなぐ為、私は最善を尽くします。

またＡＩＪ活動は楽しくもあり苦しくもあります。出会いもあれば別れもあります。

活動を通して、喜びや悲しみを共有できる仲間が作れる組織です。リーダーは常に孤独ですが、ＡＩＪでは切磋琢磨できる仲間の力も借りて自身の枠を飛び出してみましょう。

限界を超える環境が人の才能を開花させます。

会の魅力から自然と人が集まり、魅力に感化されて目の色が変わった会員を何人も見てきました。

今こうして所信を述べている私もその一人かもしれません。

面白いから夢中になれる。その先に自身の成長を実感するはずです。

私はそう信じています。

活動に際し、深い理解と支援を頂ける家族や従業員・地域の皆様への感謝を胸に刻み、先輩方々が築き上げたＡＩＪイズムを継承し守り、変化に恐れることなく破り、離れることで新しい価値を創造できる様、会員同士が団結し力に変え、活動を続けていきましょう。

どうぞ本年度も宜しくお願いします。

スローガンについて

笹川　義昭

今回、スローガンを決めた経緯と私なりの考察を書きたいと思います。

時の理事長が掲げるスローガンですが、主に二種類に分かれるのではないのかなと思います。

一つは、自身の生い立ち職種等、環境の中から生まれてくる言葉（座右の銘）、もう一つは社会情勢や組織が求められている時代の価値観に合わせた言葉。今年は後者になりました。

さて、当初のスローガンの候補は、「限界突破」「再創造」「修身」「無骨」「義」「成長」「情熱を燃やせ」「守破離」「一歩前へ」「勇往猛進」、色々と出てきました（笑）。

余談ですが、理事長のスローガンは理事長自身が一番欲しいもの、足りないものだよとおっしゃる先輩もいらっしゃいます。諸説ありますね。

また、毎年のＡＩＪのスローガンをご自身のスローガンにされている先輩もいらっしゃいました。スローガンに対して色々な関わり方があると思います。

スローガンを決める時期が近づく中、コロナウィルスの感染拡大と例会の中止が続きました。最終的には、私自身が伝えたいことよりも、会として今の状況に対してどうやって立ち向かっていくか？分かりやすくお伝わりやすさを採用しました。

そして「逆境を力に」と流れ着きました。

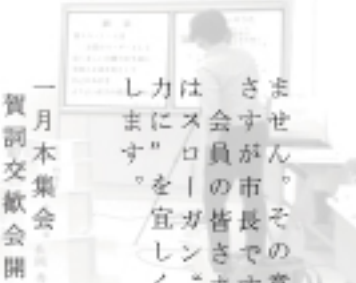
六月の後半、七月の本集会の資料提出ギリでした。

なお、理事長の引継ぎに話し方教室に通うという項目があり、私も通いました。そこで講師の先生よりスローガンの部分を強調出来ないかダメ出しをされました。

“逆境を”と“力に”の間に“間”を取ってみたり、強弱を付けてみたりと工夫を重ねました。

その過程の中で、偶然左手の拳を突き上げると間ができました。身振りを入れるとタメも作れてスローガンとも合致するという事になりました。決しておふざけでは決してありません。ただ無意識に白井市長の“昭島大好き！”が刷り込まれていたのかもしれません。その意味ではさすが市長ですね。

会員の皆さま、今年はスローガン“逆境を力に”を宜しくお願いします。



一月本集会

賀詞交歓会開催報告

専務理事　青木隆一

一月八日（金）に、本年度最初の事業であります本集会並びに新年賀詞交歓会をアキシマエンシスにて開催致しました。会場遠方から感染症を警戒してご来賓の方々にビデオレター・祝電依頼等、初めてだらけの取組みでしたがテレビ番組のような演出を行おうと前準備の段階から当日の運営に至るまで、反省する点は多々御座いましたが、新しい形の一月例会を作ることが出来ご協力頂いた関係各所の皆さまに大変感謝申し上げます。

「逆境を力に」を体現するため、まず笹川理事長が背中を見せてくれたと思います。後に続く例会担当の皆さま、持ち味を活かして一年間頑張って行きましょう！